

## MACF 礼拝説教要旨

2024年4月21日

### 「希望につながる信仰と忍耐」

#### ヘブライ人への手紙 6章 9-12節

9 しかし、愛する人たち、こんなふうには話してはいても、わたしたちはあなたがたについて、もっと良いこと、救いにかかわることがあると確信しています。

10 神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません。

11 わたしたちは、あなたがたのおののが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたいと思います。

12 あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいのです。

\* \* \*

ERV 訳というのがネットで紹介されていてこの箇所はこう訳されていました。

\*

9 友よ！私たちが言っていることに勘違いしないでほしい！

あなた達がこんな警告を必要としていないことくらい分かっている。

あなた達は良くやっていて、救いのために良いことをしていることくらい十分承知だ。

10 神は公平な方であり、私たちが行った全てのことを覚えてくれている。

あなた達が神の人々を助け、神に愛を示していること、人々のケアを続けていることなど神は全てを覚えてくれているのだ。

11 ただただ私たちが願うのは、あなた達一人一人がこれからも、これらのことを人生をかけて本気で続け、愛を示してほしいということだ。

そうすることで、あなた達は望むものを確実に受け取ることができる。

12 あなた達には怠け者になってほしくはない。神の約束を心に秘めた者たちの様に、信仰と忍耐を持って生きてほしいのだ。

1) 神様は私たちの「考え方」と同時に「生き方」「生き様」に興味を持っておられる

私たちは聖書を正しく知ろうと努力し勉強し、熱心に知識としての聖書の中身を追いかけている傾向があります。ところが神様が取り扱おうとしている内容は聖書の知識や暗誦聖句の長さではなく、もしかしたら神学的な正当性でもなく「あなたやわたしが、どう生きているか」「何を信じて生きているか」

「人のいのちや存在に対してどのように関わっているか」ということにあるようです。

## 2) 神の愛をもって「人々を助け、ケアする」「命あるものへのケアの心を持つ」

10 神は不義な方ではないので、あなたがたの働きや、あなたがたが聖なる者たちに以前も今も仕えることによって、神の名のために示したあの愛をお忘れになるようなことはありません。

とあるように、神様は私たちの全行動を知っておられ、聖なる者たち、つまりイエスさまを信じている

お互いに対してどのように応答し、ケアしてきたかをちゃんと覚えていてくださるというのです。使徒信条のなかには「聖徒の交わり」という言葉がありますが、当時迫害を受け、村八分にされていた

クリスチャンの仲間たちに対して非難や断絶ではなく、愛の手、助けの手を伸ばし、支援的に生きてきた

苦勞を神様は知っておられるというのです。

これは互いに対する「尊敬と愛と支援の心」がその時代、必要だったし、それがうまく機能して助け合いながら生きてこれたのです。

でも、比較的自由になり、それぞれが自律的に生きられるようになってきたとき、いわゆる「自己責任論」というか、自分たちのことは自分たちだけで処理し、他の人たちのことは、それぞれ

勝手にやって貰えば良いという感覚が育ってきて、昔のような支援的な意識が薄くなってきたのです。

自分たちは自分たちだけでやってきたし、自分たちだけでやっていけるという感覚が育ってきて

それまで育ててきた「愛による支援的な助け合い」などに対する不要論も出てきたのかもしれませんが。

それは「怠ける」ということと連動していたようです。

他者を無視し、他の人たちの必要に応えようとしないわけです。

ヘブライ人への手紙の著者は、希望をもって、他者への支援的な姿勢を継続するようにと勧められています。

3)「継続」「信仰」「忍耐」をもって生きることで希望を維持することができる

11 わたしたちは、あなたがたのおのおのが最後まで希望を持ち続けるために、同じ熱心さを示してもらいたと思います。

12 あなたがたが怠け者とならず、信仰と忍耐とによって、約束されたものを受け継ぐ人たちを見倣う者となってほしいのです。

自分のことだけに夢中になり、自分が満たされることだけを求めてしまうと、結局飽きてしまうことがあるのです。そこそこの幸せ感を手に入れたら、もうそれで十分という心になってしまうのです。

でも、それでは、神様の祝福の全体像を味わうことができないのです。

希望を持ち続け、心を満たされながら、神様の祝福を味わうには「自分のこと」と「自分以外の誰か」の祝福を願い、それを喜ぶことで、前に進むことができます。

そんなことを言うと、わたしには何も出来ないと心を塞ぎたくなるかもしれません。

マザーテレサがこんな言葉を残しています。「愛とは大きな愛情をもって小さなことをすることです」

小さなことを自分に向けるだけでなく、誰かにも向けてみる。必要であればし続ける、感謝の言葉や

見返りがなくても、継続してみるという姿勢こそとても大事な生き方につながります。

「継続」「信仰」「忍耐」をもって神様からの愛を受け取りながら「小さなことを丁寧にし続ける」これは神様が求めておられる生き方なのだと語られています。

その継続のための力こそ「信仰」であり「イエスさまの教えてくださった忍耐」なのです。

\* \* \*

MACF 礼拝映像は

<https://youtu.be/OFepeP1yRnE>